

# ハンドラッパー HAND LAPPER

850



PRICE-850

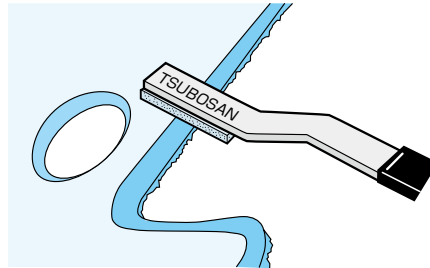


## ■ C 砥粒 結合度 0

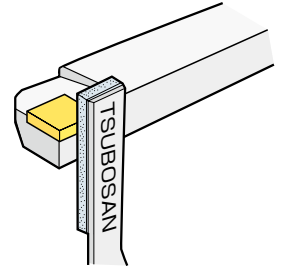
## ■ 用 途

- ドリル・バイト・カッター・庖丁・ハサミ等、焼入鋼の再研磨後の刃先修正（刃止め）。
- 超硬金属工具・ガラス・セラミックス等の修正。

■ Use : Modifying the edge of Twist-drill, Cutter, Knife, Scissors, Glass, Hard Metals, etc.



● プラスチックの成型や鋳物等のバリ取りに！



● ドリル・バイトの再研磨後の修整に！

## 規格表 STANDARD TABLE

DIMENSION	平 HAND		半丸 HALF ROUND	三角 TRIANGULAR	BOX	
	W × T mm	W × T mm	W × T mm	W mm	pcs	kg- 10pcs
	175L 45 ̢	12 × 5	12 × 4.6	12	10	0.4
ITEM No.		HIL ****	HAL ****	SAL ****		

	荒		中		細		油
HANDLE COLOR	青 BLUE	赤 RED	緑 GREEN	黄 YELLOW	黒 BLACK	濃紺 NAVY BLUE	濃緑 DARK GREEN
砥粒 GRID No.	# 180	# 240	# 320	# 400	# 600	# 800	# 1000
ITEM No. *** assorted	0180	0240	0320	0400	0600	0800	1000

< ITEM No. 例 > 半丸ハンドラッパー # 320 : HAL0320

< ITEM No. ex > HALF ROUND HAND LAPPER # 320 : HAL0320



## やすり八題 ⑦

苅山 信行

ものの本によると、「やすりの材料は出雲松江、伯耆から玉鋼を購入した」、「安来の砂鉄から生産する安来鋼を使用した」とある。玉鋼と安来鋼は同じ物で「たたら製鉄」で作られる。

たたら製鉄は砂鉄を原料とし、木炭を燃料として鉄を作る。できた鉄塊を鋳（ケラ）といい、その中央部に品質の良い玉鋼ができる。

この玉鋼にもランクがあり、『鑑と鍛冶』によると、極上を刃（かねてん）、上を刃（かねすん）、上の下を可（かねか）、並級を可（かねや）というように品質の等級が付けられた。

極上は日本刀に、上はやすりや包丁の刃に、上の下は鉋（なた）や鎌（かま）に使用され、並級は海軍工廠（しょう）へ納められた、という。やすりは高級な玉鋼が使われていたようである。

これら玉鋼は、産地から馬や川舟で広島の間屋へと集められ、内海の各地へと供給されたという。仁方ややすりの玉鋼もこうしたコースをたどったであろう。

## 安来の玉鋼

「玉鋼はやすり鍛冶で15㍉ぐらいの幅に打ち延ばされやすりの材料となった」。この玉鋼を使用したやすりの評判は、いまひとつであった。

考えられる理由としては、玉鋼は成分のバラツキが大きく、やすりのように、使用面の大きい工具を均質に作り上げることは非常に難しいことによる。玉鋼を熟知し、卓抜した技量の持ち主のみが優れたやすりを作り上げたであろう。

「明治二十年代になると、玉鋼にかわって『スタル材』が手に入るようになった」。このスタル材の実体は分からないという。

考えるに、スタルはドイツの「Stahl」シュタール（鋼）のことで、鉄鋼石を原料として溶鉱炉で作られた鋼であろう。この材料で作ったやすりは、評判をとったという。

（広島県立西部工業技術センター主任研究員＝呉市）

緑地帯 3. 10. 5 中国新聞より